武蔵国分寺、未来につなぐ心

こくぶんじ観光まちづくり協会　星野信夫

１　はじめに　ー史跡指定 100 周年に当たってー

・武蔵国分寺創建の「理念・決意・情熱」から、「未来につなぐ心」を考える。
・聖武天皇は、困難な状況から国と民を守るために、「この世に蓮華像世界を」という壮大な構想を描き、「都に大仏、全国に国分寺」という具体策を講じた。
・仏教に基づく構想の理念は、現代にも通じる「安寧、共生、協働」だった。
・全国最大規模の武蔵国分寺は、その構想を受け止めた武蔵国人の心の所産である。

２　国分寺市の大きな歴史の流れ

・新石器～縄文時代＝日本最初の新石器発見、縄文中期の土器（国の重要文化財）
・武蔵国分寺の建立～焼失＝全国最大規模の武蔵国分寺、分倍河原の合戦で焼失
・江戸時代の新田開発～現代＝２古村に８新田が合併し（新）国分寺村が誕生
　　＊武蔵国分寺の建立も江戸時代の新田開発も明治の新しい村づくりも、
　　未来に夢を描き苦難を乗り越えてきた人々の心の結晶と考えたい。

３　国分寺建立に向かう時代　―内憂外患―

・白村江の戦で唐・新羅の連合軍に大敗（663）
　　＊外圧に備えるとともに、唐を目標に天皇中心の律令国家をめざす
・自然災害（大地震、旱魃)、天然痘ウィルスの大流行　→政治の混乱
・701 年、首皇子（聖武天皇）が誕生、不幸な子ども時代
　　＊716 年、結婚　→718 年、阿倍内親王誕生　→724 年、聖武天皇即位

４　聖武天皇（１）　―弱者に寄せる心―

・727 年、基親王誕生、728 年、基親王死去、安積皇子誕生
・山上憶良（首皇子の侍講）の歌に「子を思う心・弱者に寄せる心」を学ぶ
　　＊733 年、山上憶良死去、辞世の歌も心に響いたか
・729 年 2 月、長屋王の変　→８月５日「天平」と改元、１０日光明子立后
・731 年、牢獄で苦しむ罪人を赦免　　＊続日本紀を読み感動（中西進）

５　聖武天皇（２）　―国と民を守る責任感―

・朕が人民を慈しみ育てることになってから何年かたった。しかし～牢獄は空となっていない。夜通し寝ることも忘れて、憂え悩んでいる。天変がしきりに起こる。
その責任は朕一人にあって、多くの民に関わるものではない。(続日本紀、734 年)
　　＊737 年、藤原 4 兄弟（光明皇后の兄）が天然痘で死亡、橘諸兄政権の誕生
　　＊740 年 8 月、藤原広嗣（皇后の甥）の乱　→怒り、断固たる措置

６　壮大な構想（１）　―盧舎那仏を拝し決意―

・740 年 2 月　聖武天皇と光明皇后、河内国智識寺で盧舎那仏を拝す

＊盧舎那仏は「光明遍照」を意味する華厳経の教主、宇宙に遍満し宇宙のすみずみまで光り照らす宇宙統一体の象徴

・「国と民を守るために盧舎那仏のお力をお借りしよう！」「自らも盧舎那仏のように民を光り照らす存在にならなければならない」と決意

７　壮大な構想（２）　―この世に「蓮華蔵世界」を！―

・都に盧舎那大仏を、全国に釈迦如来を本尊とする国分寺を建立し、「この世に蓮華像世界を築く」という構想を描く。

・華厳経が描く蓮華像世界は、「都に国と民を思う天皇、全国にその天皇の命を受けた国司」という、唐を参考に目指した天皇中心の律令国家体制と一致する。

８　壮大な構想（３）　―識者の見解―

・華厳経（梵網経）には、宇宙の統一的な姿が描き出されており、聖武天皇はこれを統一国家日本の理想像に見立て、大仏建立を志した。（田村芳朗）

・これは日本を国家といる構造体で考えようとしたものだったし、今までどの天皇も思い及ばなかった革命的な国家ビジョンであった。（中西進）

９　構想実現へ、詔を発す！

・740 年１０月２９日、藤原広嗣の乱がほぼ終息したのを見届け、東国に出発。
壬申の乱の際に曽祖父天武天皇がたどった道を追体験。

・伊勢神宮に勅使を派遣し、「蓮華蔵世界の実現」（全国国分寺・盧舎那大仏の造立）の成就を祈り、趣旨を練り決意を固める。

・国分寺建立の詔（741 年、恭仁宮で）、大仏造立発願の詔（743 年、紫香楽宮で）

１０　国分寺建立の詔（１）　―仏の教えで国と民を守る―

・金光明最勝王経には国王がこの経典を読誦・信奉し、その普及を図れば、四天王が来臨して国王を守護し、憂愁・疾病等、一切の災障を消除するとある。

・朕の願いは仏法が理解され盛んになることであり、仏法の守護神たる四天王に守られて、来世・現世いずれにおいてもその恵みに浴することである。

＊続日本紀　全現代語訳（宇治谷孟）より引用、以下同じ

１１　国分寺建立の詔（２）　―国ごとに僧寺と尼寺、安寧を祈る―

・僧寺は、「金光明四天王護国之寺」とし金光明最勝王経を読誦、僧 20 人

＊四天王＝東に持国天、西に広目天、南に増長天、北に多聞天（毘沙門天）

・尼寺は、「法華滅罪之寺」とし法華経を読誦、尼僧 10 人

＊法華経は「誰にでも仏性がある」と説く統一と平等の教え（梅原猛）

１２　大仏造立発願の詔（１）　―共生の世をみんなで！―

・三宝（仏法僧）の威光と霊力に頼って、天地ともに安泰となり―中略－生きとし生けるもの悉く栄えんことを望む。　＊共生

・朕の富と権勢をもってこの尊像を造ることはなりやすいが、その願いを成就することは難しい～　一枝の草やひと握りの土のように僅かなものでも捧げて、この造仏の仕事に協力したいと願う者があれば～これを許そう。　＊みんなで造ろう（協働）

１３　大仏造立の詔（２）　―みんなで利他行（協働）―

・(みんなで造るのだから) 国や郡などの役人はこの造仏のために、人民の暮らしを侵し乱したり、無理に物資を取り立てたりしてはならない。

＊みんなで造ろう！＝みんなで利他行、みんなで悟りを開く＝大乗仏教

→この理念に基づき社会奉仕活動を進めていた僧行基の集団が協力

１４　苦難にめげず大仏造立

・744 年 1 月　安積親王の死、4 月大地震発生、紫香楽宮の大仏体骨柱崩れる

745 年 9 月　大和国分寺（東大寺＝総国分寺）で大仏鋳造開始

749 年　百済王敬福、陸奥で黄金発見

＊天皇の御代栄えむと東なる　陸奥山に黄金花咲く（大伴家持）

749 年　孝謙天皇即位　　752 年　大仏開眼供養　　756 年　聖武太上天皇崩御

１５　全国最大規模の武蔵国分寺　―全郡の「協働」―

・全国 68 の中で最大規模、詔の趣旨を受け止めた武蔵国人の心意気か

・国司の指導力、郡司層の実行力・財力、渡来人の技術力・仏教信仰心の反映

＊武蔵国全郡（758 年設置の新羅郡以外 20 郡）の瓦、府中市武蔵台遺跡の「漆紙文書（具注歴)」から判断し、完成は 757～758 年頃と考えられる。

１６　詔を受け止めた武蔵国司　―多治比真人広足―

・任期 738～746、後に中納言となり聖武天皇の山作司を務める。

・父は多治比真人嶋（右大臣)、兄は多治比真人広成（遣唐大使)、皇族の流れをくむ多治比氏として聖武天皇の思いをよく理解し、武蔵国分寺建立の初期段階で、四神相応の寺地や全国最大となる規模の決定に尽力。　　＊（故）村山光一慶應義塾大学教授の見解

１７　「四神相応の地」を選定

・選ばれた地は国府に近い四神相応の地

・東には川＝全国名水百選「お鷹の道・真姿の池湧水群（野川)」(青龍が守る)、

西には大道＝武蔵国府・都に通じる東山道武蔵路（白虎)、

南は国府まで続く平らな低湿地（朱雀)、北には丘陵＝国分寺崖線（玄武）

１８　完成に導いた武蔵国司　―高倉（高麗）福信―

・高句麗系渡来人、756 年聖武天皇崩御の際に多治比真人広足とともに山作司を務め、同年武蔵守に遷任　　＊後に、正倉院御物を記した「国家珍宝帳」に署名

・国司在任中に（渡来人の協力を得て）武蔵国分寺完成、758 年新羅郡設置

＊854 年、男衾郡の前郡司壬生吉志福正（渡来系）が七重の塔再建を願い出る。
福信の伝承や創建に協力した先祖の思いが受け継がれていたか。

１９　国分寺の影響力と衰退　―変わる世の中と人の心―

・国分寺建立に伴い、全国各地に都の仏教・学問・文化・医術・建築技術等が伝播し、国分寺は地域の中心として重要な役割を果たしていた。

・しかし、仏の「理想世界」を人間の「現実国家」で実現することは難しい。
時代の変化とともに、全国の国分寺は国家の保護が薄れ衰退に向かう。

＊鎌倉街道が尼寺の上を通っている　→鎌倉時代には尼寺は衰退、消滅？

＊源頼朝は全国国分寺の修復を命じた　→修復されず放置されていた？

２０　平和を願った武蔵国分寺、戦火で焼失

・1333（元弘３）年、分倍河原の合戦（新田義貞対鎌倉幕府）で焼失

・唯一焼け残った薬師如来坐像（平安時代後期の作、国指定重要文化財）

・新田義貞の寄進で（？）薬師堂建立、次第に（旧）国分寺村が形成され江戸時代中期には武蔵国分寺が再建された。鎌倉街道沿いには恋ヶ窪村も誕生

＊国分寺村の「真姿の池伝説」は薬師如来信仰を物語る。

２１　（新）国分寺村の誕生　―新しい村に寄せる心―

・1889（明治 22）年、２古村と江戸時代に開発された 8 新田（本多、戸倉、野中、榎戸、内藤、中藤、上谷保、平兵衛）が合併を命じられ名称を巡り大混乱。

・翌年、近隣有力者をまじえた協議により最終的には「国分寺村」で決着、その日は「国分寺建立の詔」が出されたのと奇しくも同じ 2 月 14 日だった。

＊武蔵国分寺創建当時のことも話し合われたのだろうか。

２２　おわりに　ー未来につなぐ心―

・史跡や文化財にはその時代を生きた人々の心が込められている。

・武蔵国分寺創建の心「安寧、共生、協働」は未来にも通じる理念であり、「国分寺市」という市名には創建当時の熱い思いと後の時代の人々の心が込められている。

・府中市と国分寺市、それぞれのまちの心を継承し、次代に誇れる郷土を築いていこう！